緩和ケアだより

ひだまり

第9版
令和3年　8月号
公立八鹿病院　緩和ケア病棟

毎日暑い日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしですか？今年の夏は、東京オリンピックでしたね。患者さんの好きな競技や選手のはなし、昔のオリンピックの思い出話に花が咲きとても楽しいひとときでした。庭園では暑さに負けず、夏の草花やさつまいもがぐんぐん育ち、秋の収穫が楽しみです。

今回は、がん患者さんが困ったときの『どうしようか…』のヒントとなるお話パート2をご紹介します。

季節の行事

七夕会

ホールに設置した大きな笹に、患者さんが願いを書かれた短冊を飾りました。病室で撮影した写真と、折り紙で作った織姫・彦星で手作りフォトフレームを作成しました。
皆さん笑顔で、楽しいひとときを過ごされていました。皆さんの願いが叶いますように・・・

自宅に帰りたくなったAさんのお話

※実在の患者さんではありません

妻と自宅療養していたAさん。胸の痛みと息苦しさが強くなり、緩和ケア病棟への入院を決断しました。

Aさん
80歳男性
肺がん

1日中胸が痛い。息苦しい。

先生、緩和ケア病棟への入院の手配をお願いします。

生まれてからずっとこの家で過ごしてきたのに、いよいよこの家とお別れだ。

主治医

それは辛いですね。
Aさんが望まれるのなら、緩和ケア病棟に入院できるよう、紹介しましょう。

入院後しばらくすると、胸の痛みや息苦しさが楽になりました。同時に、ベッドに横になってばかりの病院生活が退屈に感じるようになりました。

先生、おかげで胸が痛いのも息苦しさも楽になった。でも、何もすることがなくて退屈だ。

このまま最期まで、ここで何もせずに退屈に過ごすのはつらいな。最期までわしはここにおらなあかんのでしょ？

Aさんは、これからの時間を退屈に過ごすのがつらいと思っておられるんですね。
緩和ケア病棟に入院すると、最期までいないといけないと思っておられませんか？

主治医は、Aさんに患者さんと家族が望めば緩和ケア病棟を退院できることを伝え、実際に退院された方の在宅療養の様子をお話ししました。

えっ？いったん入ったら退院できんのと違うんですか？

退院したら、もう1回入院したいと思ってもできんのですよね？

いいえ、患者さんとご家族の希望があれば、退院や入院ができます。

いろんな状況で人の気持ちは変わります。その時々の気持ちを聞かせていただき、どうするのがいいのか一緒に考えましょう。

その後、Aさんは家族や主治医、看護師、相談員と話し合い、退院することを決めました。

家に帰ります。訪問看護やヘルパーさんに手伝ってもらいながら、ばあさんの味噌汁を食べたり、庭の花を見たり、猫のたまの世話をするわ～。

また辛くなったら相談してもええですか？

もちろんです。これからの時間、Aさんが希望どおりに過ごせるよう、お手伝いさせてくださいね。

緩和ケア病棟は最期の場所ではありません。思いがゆらぐのは当たり前。
私たちはいつでも患者さんが望む生活を送れるよう、寄り添います。

編集後記　入浴介助や清拭など、ケア後の患者さんの笑顔や優しい言葉が、私たちのやりがいの源となっています。患者さんの笑顔が少しでも多く見ることができるよう、スタッフ一丸となり支えてつづけていきたいと思っています。　（編集委員）